

ラグビーリーグワン1部・相模原の佐川奨(23)が日本代表に初選出され、11月の欧州遠征に帯同した。佐野日大高出身で15人制の代表選出は初めて。試合出場こそなかったが、各国代表選手のプレーを間近で見たり、エディ・ジョーンズ監督から直接指導を受けたたりした佐川は「セツトプレーなど自分の弱い部分のレベルを上げたい」とさらなる成長を目指す。

(橋本裕太)

「学んだこと生かす」

相模原の佐川、日本代表に

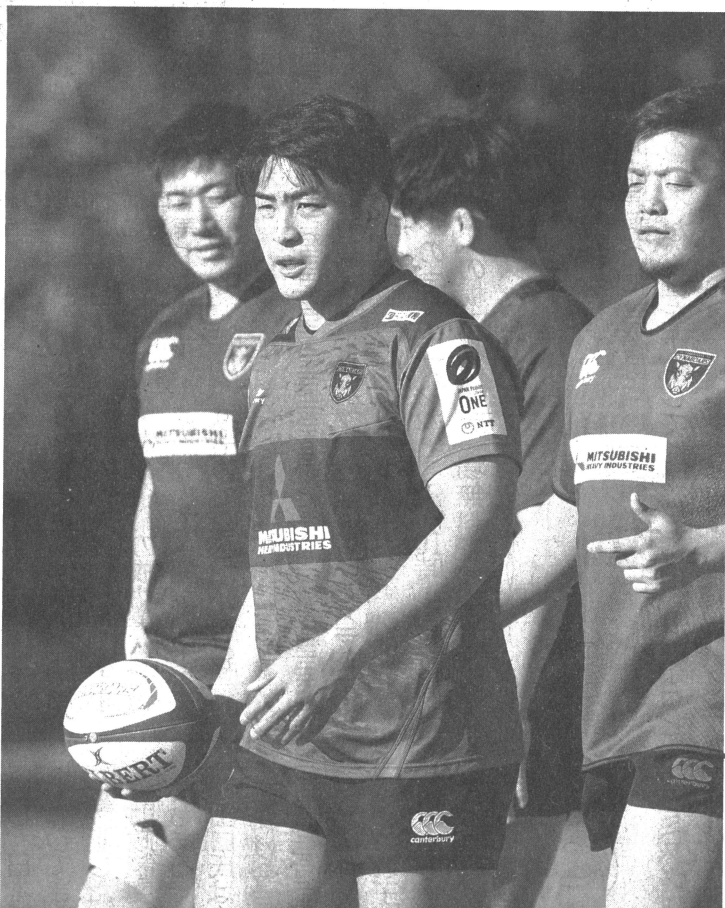
ラグビーの話題

福島県出身。幼少期に栃木県内へ転居し、小学2年時に佐野クラブで競技を始めた。「高校でも続けるか迷っていた」というが、誘いがあつた佐野日大高へ入学。主にナンバー8として活躍し、2年時には同校初の全国選抜大会出場に貢献した。

進学した日大では1年秋からレギュラーを掴み、最終学年で主将を務めた。100人超の部員をまとめ「同じ方向を向くようにリードする難しさがあつた。人との関わり方を学んだ」。その後、アーリーエントリーで4年時に相模原へ加入。「持ち味の体の強さと運動量を生かしたい」とフッカーへ転身し、今年5月にリーグ戦に初出場した。

代表活動に関わり始めたのはその後から。リーグ戦終了後、プレーオフ進出を逃したチームから選出される代表候補メンバーに入り、10月に若手主体の代

佐野日大高出で初選出



表「XV」、11月の欧州遠征と続けて選ばれた。活動を振り返り「弱点が明確になった」。現在はスローイングやセツトプレーの課題克服に重点的に取り組んでいる。

今回の代表選出は、2027年のワールドカップ(W杯)を見据えた若手選手発掘の側面もあつたが「エディが選んでく

れたのは自信になった。代表で学んだことをチームでのプレーに生かしたい。まずはリーグワンでしっかりと試合に出ることが大切」と意欲を高める。

日本代表経験がある佐野日大高の藤掛三男監督は「高校時代は精神的に弱い部分もあつたが大学、社会人でかなり成長した。代表選出は後輩たちへの励みになる。しっかりと実力をつけてW杯を目指してほしい」と期待を込めた。

野球独逸インBCリルデンブルは16日、栃ックスポーターで新人を開き、下蒼侑投手(作新学院大)な舞台でつた。

新人団選捕手1人、下徳人監督力強いメン。本当にツシユな選込めた。

B見G会木団入

破竹

4

栃木シティJ3優勝

いう同市は「サッカー教室などで、子どもたちに夢や希望を与えていたきたい」と期待を寄せる。

シティが本拠とするシ

一方、栃木市とは、チームのメインスポンサーである「日本理化学インダストリーズ」(東京都品川区、大栗社長)が同市岩舟総合運動公園内に建

行われておらず、サポートから心配の声も上がっている。ただ12月上旬は定例市議会があつたため日程が合わず、現在もチームとは調整を続けているという。

栃木市の担当者は、チに昇格し

ムバからデタニの巨馬